

# はじめての 万葉集

vol. 18

日本に現存する最古の  
和歌集『万葉集』を  
わかりやすく紹介します。

## 三笠山の 月をみる遊士

現在、春日大社で式年造替が行われているのは皆さんご存知のこと  
と思います。式年造替とは御本殿  
や御神宝などの新造・修繕を行う  
儀式で、春日大社ではほぼ二十年  
毎に執り行われてきたといえます。  
春日大社の本殿は御蓋山のふも  
とに建てられています。御蓋山は、  
春日山の手前にある左右対称のな  
だらかな笠型の山で、禁足地とし  
て今も守られている聖地です。

その御蓋山は『万葉集』では「春  
日なる三笠の山」と詠まれており、  
春日の地を代表する山だったよう  
です。若草山のことを後世に三笠  
山と呼んだために、現在では一般的

かすが

春日なる

三笠の山に

月の船出づ

みやびを

遊士の飲む酒杯に

影に見えつつ

(訳) 春日の三笠の山に船のような月が出た。  
風流な人々の飲む酒杯の中に、映って見えながら。

作者未詳 (巻7の二二九五番歌)

に御蓋山と書き分けがなされてい  
ます。ただし『万葉集』の三笠山  
を、現在の春日山・御蓋山などの総  
称とする説もあります。

右の歌は三笠山の月の出を詠ん  
だ歌です。通常の短歌と違って、旋  
頭歌という五七七五七七のリズム  
で詠まれています。月を夜空に浮  
かぶ船に見立てていますが、これは  
漢語に学んだ表現で、漢詩にも「月  
舟」の語がみられます。「遊士」は  
風雅を理解することができる教養  
ある男の意で、平城京に出仕する  
官人と考えられています。杯にそ  
そがれた酒のなかに三笠山の月の  
姿を見るのですから、なんとも風  
流な光景ですね。

万葉文化館では現在、特別展  
「見る・知る ―万葉と春日―」飛  
鳥と春日大社の宝物」を開催し  
ています。また、ここでご紹介した  
歌を刻んだ万葉歌碑も庭園にあり



ます。明日香の地で万葉の春日に  
思いを馳せる「みやびな時間を過ご  
されてみてはいかがでしょうか。  
(本文 万葉文化館 小倉久美子)

■特別展「見る・知る ―万葉と春日―」飛鳥と春日大  
社の宝物」について、詳しくはP21で。

## 万葉ちゃんの スポット 紹介

### 奈良県庁舎 屋上広場

県庁舎屋上広場からは、奈良盆地  
の景観が一望のもとに眺められます。  
特に奈良公園の東大寺大仏殿、若草  
山、興福寺五重塔を間近に眺めるこ  
とができる絶好のロケーションです。



ベンチや花壇が設置されています

【10・11月屋上開放時間】平日8時30分～17時30分 土・日・祝10時～17時  
※その他の期間は県管財課(☎0742-27-8406)へお問い合わせください。

アクセス [www.pref.nara.jp/4203.htm](http://www.pref.nara.jp/4203.htm)

近鉄奈良駅下車 東へ約500m または  
JR奈良駅から奈良交通バス(市内循環外回り)県庁前下車すぐ